

## センター試験 倫理 (本試験) ワンポイント解説

第1問	問1	プラス1以上の攻撃的反応を示すのは、子どもAは注意される時とほめられる時であり、子どもBは仲間が近づく時であり、どちらも限られている。
	問2	通過儀礼は成人や結婚など人生の節目に行われる儀礼である。
	問3	オルポートは、成熟したパーソナリティの特徴として6つ挙げており、④には「現実世界と接触する知覚と技能」が欠けている。
第2問	問1	①ストア派は、「精神的快樂」ではなくて禁欲を説いた。②「哲学者が国家を支配すべき」と言ったのはプラトンである。④「物事の尺度は相対的」と言ったのはプロタゴラスである。
	問2	ソクラテスは無知の自覚があったので、相手を「知へ誘う」こともなければ、相手に「真理を教授」することもなく、自分の考えを優れているとも思っていなかった。
	問3	苦の原因を諸法無我と諸行無常に求めた問いである。恒常不変の実体は（自分も含めて）存在しないというのが諸法無我であり、万物は変化して止まないというのが諸行無常である。
	問4	竜樹は、存在するものすべてには固定的な実体がないとする空の理論を唱えた。
	問5	ア. は朱子の理気二元論であり、イ. は墨子の兼愛説である。ウ. は少欲を主張する老子であり、エ. は法家の韓非子である。
	問6	ユダヤ教でもイスラム教でも、偶像は否定され、神は超越者である。また、クルアーンの十の戒律には休日の規定がない。
	問7	①「予定」はカルヴァンのキーワードである。③はアウグスティヌスの原罪に関する説明であるが、アウグスティヌスは自由意志を否定している。④律法の厳格な遵守を主張するのはユダヤ教である。
	問8	アウグスティヌスの人生遍歴に関する問題である。なおトマス・アキナスは中世スコラ哲学の大成者であり、主著は『神学大全』である。マルクス・アウレリウスはローマ皇帝でもあるストア主義者であり、『自省録』を著した。
	問9	本文第3段落内容が③の「外からの働きかけ」に相当し、第4段落の「自己のあり方を真剣に見つめ」が③の「表面的な自己理解を超えて」に相当する。
第3問	問1	①の「絶対的に善なるもの」や③の「全知全能」はキリスト教的な神である。また、④の「根本原理」は八百万の神々のあり方を表すものではない。
	問2	「隠しごとがなく純粹」な心を清き明き心といい、日本の伝統的な徳目であり、赤心、正直、誠とも呼ばれる。その反対は、汚き心、暗き心、私心、黒心と呼ばれる。
	問3	資料には、人間は死ねば善人も悪人もみな汚い黄泉国に行くので、死ぬことほど悲しいことはない。儒教や仏教は、死は悲しむべきではないという理屈をつけるが、それは真実ではない、と記されてある。
	問4	浄土教（念仏宗）は、南無阿弥陀仏という名号を唱えることを主張する。唱題は日蓮宗、真言は真言宗、坐禅は禅宗のキーワードである。

第3問	問5	因果応報とは、前世での行いが原因となって、その結果として現世の状況が決定されるといふ考えである。なお、諸行無常、涅槃寂靜、諸法無我は四法印に関係する。
	問6	吉田松陰は、全国民が天皇に忠誠を尽くすという一君万民論と、「功名や利欲を離れた純粹な心情」である誠を主張した。②は伊藤仁斎であり、③安藤昌益であり、④は二宮尊徳である。
	問7	福沢諭吉は、個々人の独立心（独立自尊）を育てることによって、一国の独立が果たされると主張した。また、実学（数理学）を学ぶべきだと説いた。
	問8	唯物論に従えば、すべては物質に還元されるので、靈魂の存在は否定され、天国も地獄も存在しないことになる。したがって、①と④は否定される。②は「回数が多い」の意味が通じない。
	問9	本文には物質文明や自然観の確立に関する言及はないので、①、③は妥当しない。また、第四段落は宗教を否定しているので、④は適切ではない。
第4問	問1	①はベーコンであり、②はスピノザであり、③はパスカルである。
	問2	①は「白紙」とあるのでロックである。また、カントは経験論と合理論を批判的に総合しているので②は適切ではない。
	問3	デカルトによれば、物体の本性は延長であり、精神の本性は思惟である。なお、生存権は日本国憲法にも明記されている現代的な権利であり、ファランジュはフーリエの名づけた理想的な農村共同体である。
	問4	難問である。ゲーテは汎神論の立場から機械論的自然観を批判した。
	問5	人間の本質を宗教と捉える人間観をホモ・レリギオーススという。
	問6	①は「死の自覚」「本来的な自己」とあるので、ハイデggerである。②はショーペンハウアーである。③は「単独者」とあるので、キルケゴールである。④は「ニヒリズム」とあるので、ニーチェである。
	問7	難問である。①は「実存が本質に先立つ」とあるので、サルトルである。②「存在するとは知覚されること」と言ったのは、経験論の立場に立つパークリーである。③「語りえぬものについては、沈黙せねばならない」と言ったのは、言語ゲームでも知られるウイトゲンシュタインである。④は現象学の創始者であるフッサールの思想であり、ハイデggerの師としても知られる。
	問8	資料により、人間は、自分の所有する身体を使った労働をつけ加えることによって、物を所有する権利を妨げられないので、①、③、④は適当である。生産手段の所有による他人の支配については、資料では言及されていないため、②は適当ではない。
	問9	メルロ＝ポンティの意見や最終段落内容が②に相当する。
第5問	問1	ア. の「深い麻酔をかける」や、エ. の「水や餌を与える」「適切な温度に維持する」はCの苦痛の軽減に当たる。イ. の「重複する実験を行わない」はAの使用数の削減に当たる。ウ. の「目の組成によく似た細胞を使い」と言うのはBの代替手段への置換に当たる。

第5問	問2	①出生前診断で男女の判別は可能である。②配列はすべて解明されたが、役割はまだである。④安全性や環境への影響を疑問視する声はなくなっていない。
	問3	改正前は、15歳以上の者がドナーカードへの署名による意思表示によって臓器提供が可能であった。改正後は、本人が生前に拒否の意思表示をしていなければ、年齢を問わずに臓器提供ができる。
	問4	カントは、実践理性の立てた道徳法則に自ら従うことを自律と呼び、この自律を自由とみなし、また、このような人間を人格と呼んだ。
	問5	①快樂の量と質を区別したのはミルである。②資料では、理性や言語ではなく苦痛を感じることができるかどうかの問題であるとしている。③道徳感情に言及しているのはアダム＝スミスである。
	問6	循環型社会とは、資源を有効活用し、自然界から資源を取り出す量と自然界への廃棄量を最少にする社会をいう。①の「環境に大きな影響を及ぼす事業について、事前に調査し評価すること」は環境アセスメントを意味する。④は「地球規模で考え、足元から行動する」という環境保護活動のスローガンに相当する。
	問7	石牟礼道子は、水俣病患者の立場に立った記録文学「苦海浄土」を著した。南方熊楠は、鎮守の森を失えば自然の生態系と共同体の文化が破壊されるとして、明治政府の神社合祀令を批判した。
	問8	Zさんは「確かに自然を守るのは大切」と述べ、さらに、「人間は将来を見通して、自分たちのために必要だと思えば、動物や自然を守っていく」と述べている。